

追手門学院大学

校友会会報



第73号
平成24年(2012年)3月1日
発行者 〒567-8502
茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学校友会
会長 平野 昌雄
電話 072-643-6135
FAX 072-643-6099
URL <http://ogu-koyukai.com>
E-mail info@ogu-koyukai.com

校友会会長挨拶

追手門学院大学

校友会会長 平野 昌雄

(1期生 経済学部)

校友会会員の皆様には、平素校友会活動に格別のご支援とご協力を賜り心より御礼申し上げます。



母校は2016年に創立50周年という記念すべき年を迎えますが、さらに新たな50年の第1歩を踏み出す為、私たち校友会は母校のさらなる発展に協力していきこうと考えております。

大学を取り巻く環境は、少子化や競争激化等厳しいものがあります。

母校に対する校友の意識高揚、若手校友の参画、地域に根差した活動の支援、国際化問題等今後の母校支援に対する校友会活動は

多々あります。

まずは、現在進めております支部活動の強化、組織の活性化、卒業生の就職支援強化、現役校友会との連携強化を中心に活動を行います。

追手門学院は123年の伝統を持つ総合学院です。学院のリーダーとしての校友会を確立しさらなる大学の飛躍的発展の為、校友の皆様と力を合わせていきたいと考えております。

母校支援の為、校友の皆様とのさらなるご支援をお願いいたします。

追大の卒業生として誇りをもって

追手門学院大学

学長 落合 正行



卒業おめでとうございませす。みなさんは、本学で学生として人生の中でも重要

な青年期を4年間過ごされました。学生時代の生活はこれから経験する生活とは随分違った生活です。これから社会の中で、大学生活の4年間の真価が問われます。そして、皆さんは、また追手門学院大学の卒業生としても評価されることとなります。従って、追手門学院大学の評価は、皆さんのあり方にかかっているのです。

皆さんを待ち受ける社会は、グローバル化の社会です。対象となる社会は、世界です。政治、経済、文化などが、世界規模で考えなければならなくなっています。従って、例えば経済的状况も、一つの国の中では解決しがたいこととなつてきています。このようなグローバル化の状況の中での問題解決は、これまでの経験が必ずしも意味を持つわけではありません。

このような時代に求められるのは、国際的教養人です。広い視野から物事をとらえることが出来、妥当な判断が出来、さまざまな文化、社会制度、価値を考慮

することが出来るバランスのとれた確かな人です。

皆さんは、本学の独立自彊・社会有為という建学の精神を指針として、追手門学院大学の卒業生として自分らしく生きてください。

大学は、皆さんを終生応援しています。そして、必要があれば、皆さんの母校で再出発をするようにしてください。

皆さんは、追手門学院大学の卒業生として誇りと自信を持って社会の中で堅実に歩み続けてください。

「大学創立50年史並びに記念DVD」を作成することになりました

皆さまのご家庭で眠っている大学に関する貴重な映像や写真(当時の記念映像8ミリ、16ミリフィルム、ゼミナールやクラブ活動の写真・資料等)がございましたら、ご寄贈、ご貸与いただけますようお願いいたします。詳しくは、本誌6ページをご覧ください。

よっこそ東京へ

東京支部長 春名 弥生

(5期生 文学部)

新43期生の皆様、ご卒業おめでとうございます！



箱根の山を越え、関東で就職・新生活を始

められる皆様は、きつと一大決心のもとに上京されたことと思います。見知らぬ土地への不安は如何ばかりかとお察し致します。

まず、はじめに……関東圏では、追手門学院大学の知名度は、ゼロに等しいです。

関西の関関同立の4大学名すら正確に答えられない人が大勢いるのが東京です。地元大阪育ちの私達には、大閤秀吉築城の大坂は大都市と思っけていますが、こちらに来ると、大阪は名古屋と並ぶ地方都市にすぎないのです。

だからこそ、実に気楽なのです！学歴やコネでもない、個々の実力で勝負できる環境がすでに整っているという訳です。さらに、親子三代の生粋の江戸っ子は、

ごくわずかだと言われている。二世紀余りにわたり平和が続いた江戸時代に、経済も文化も大いに発展し、大江戸が東京と改称された近代以降も、全国から人々が流入してきました。

急速な変化と刺激、グローバルな人脈を求める若い世代の皆様に、仕事や生活文化や意識の中から、都市再生の活力を肌で感じ、将来の日本を築くりーダーになって頂けたらと願っています。大阪市長の橋下氏も今、国政をめざして模索しているようですね。

我ら追大、校友会東京支部(関東圏7県)は、第4期卒の先輩を筆頭に約550名の会員によって構成されています。年1回の東京支部総会&懇親会や大学主催の講演会開催だけでなく、有志による集い(呑み会)も行ってあります。異業種交流会のような形で、大学時代の話から仕事上の相談・アドバイスを、一線でご活躍中の先輩方々からのお話など、幅広く新卒の皆様をご支援できるメンバーが揃っております。また、女

性の参加もあり、賑やかに大阪弁の飛び交う東京支部会へのご参加をお待ちしております。

東京支部：春名弥生宅
中央区勝どき6-3-2-1625
PCメール：
sax841@com.home.ne.jp

新卒業生の皆さん、校友会を知っていますか？

京都支部長 岡 正樹

(6期生 経済学部)

新卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！



君達は、追大に校友会なる会があるのをご存知ですか？そう、卒業アルバムを卒業生に贈呈している会です。新卒業生の君達は、追大校友会の新人会者になったのです。

では校友会って何の会？
答えは、OB会です。
今、社会では媒体をとおしての縁や絆が主に成りつつあるなか、阪神淡路1・17や東北の3・11を体験する事により、体温の感じる人と人の本来の縁を大事にし、そして育み、その絆を大切にすることが求められ

ています。時代は変わっても、生涯の何パーセント時間を同じキャンパスで過ごした思い出は何処かで繋がっていると思います。そうした御縁を大切に校友会は全国に支部創設をと頑張っています。今現在、創設支部は東京・京都・中国・九州、四国・東海と六つの支部があり、新社会人となった君達に新しい生活の場でのサポートや、人生のヒント、エイジを超えた付き合いのできる仲間づくり場となる為、共に努力しています。また現役学生に向けた就職活動への支援やサポートをも視野に入れた活動を取り入れて行こうとキャリア開発なども行おうとしています。

京都支部では、春に支部の集いとして昨年は自己啓発セミナー、今年はぶらつとアメリカに旅行、20年という人生談を語っていた、会場はその生き方に引き込まれました。夏には大学のアワー in 京都とリンクし支部総会と親睦会を行う秋には研修会、昨年は京都迎賓館見学(縁故見学だ

だったので、一般見学では入れない所まで見学)その後、西賀茂正伝寺での御月見の会に参加しました。狩野山楽の襖絵もよかった、日々出会い、日々感動、日々ときめき、これからもうーと！新入会者の君達には、校友会を身近に感じていただき、各支部のこれからの活動にあたりご意見を聞きたいと思っています。次の新入会者にも積極的な参加や意見をまっています。
卒業してからの人生の始まり

中国支部長 筒井 弘祐

(6期生 経済学部)

皆さん、御卒業おめでとうございます。



私は一昨年、中国・四国支部から独立して

中国支部として発足し、支部長に任命されました6期卒業の筒井と申します。現在は地元である岡山を中心に活動している状態です。

まず、校友会とは何をしている所かご存知でしょうか。皆さんがこれから卒業されて現在どこに就職され、

どこに住まわれて、どうしておられるか調査し皆様の現状を把握して卒業しても皆様のお役に立てばと考えている組織です。

皆様は卒業されてからが人生の第一歩であり、社会のきつい波との戦いが待っております。しかし、皆様にはこれから夢があり希望があります。又、大学時代のたくさんの仲間がいます。このすばらしい仲間が卒業しても相談にのってくれたり、はげましてくれたりできる唯一の宝だと思います。

どんな小さな集まりでも大切にしていきたい。又、少しでも援助ができればと強く願っているし、卒業しても仲間を大切にしたい。いつでも連絡を下さい。

これからが本番

四国支部長 中川 純

(21期生 文学部)
「ご卒業おめでとうござい
ます。」

小学校から学び追手門学院大学で仕上げた学習成果を社会という現場で発揮す



るときがや
つてきまし
た。いまま
での成果を

精一杯、社会で実践、還元して欲しいと思います。

さて、卒業にあたり、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」という言葉を贈ります。これは、私が追大で始め現在も修行を続けている、少林寺拳法創始者、宗道臣の言葉です。

意味は、「自分の幸せだけを考えるのではなく、半分は他人の幸せを考え実践することで世の中が良くなる」という訓えであり、どのような職種でも充分活用できる普遍的な訓えだと思っています。是非、社会で活用して欲しいと思います。

さあ、みなさんは、追手門学院大学卒業生という看板を背負つての船出、これからが本番です。

風ぎの時、時化の時、社会に出れば色々なことがあると思います。嬉しいとき、辛いとき、どんなときでも校友会は、みなさんの寄港地としての役割を果たせるよう活動しています。

是非、校友会活動に参加してください。

本年度卒業される
皆さんへ

九州支部長 岩崎 陽一

(6期生 文学部)



九州では知
られること
はありませ
んでした。勤
務地の皆様か
ら大学名を問
われて、「追手
門です」とお
応えしても知
らない人はか
りでした。し
かし、第1期
の宮本先輩の
小説がトップ
に出ると、時
の校長先生か
ら「君は彼の
後輩ですか？」
との問いに、
九州での大学
の知名度の上
昇と素晴らしい
先輩の存在に
すごく嬉し
い気持ちにな
ったことを覚
えています。そ
の気持ちから
、卒業生の一
人として、若
い母校の校風
と伝統の創造
支援者として
九州での活動
を始めました
。そんな中、
母校が輩出し
た卒業生の諸
々の活躍や学
院の歴史を知
るにつれ、追
手門のリベラ
ルで家族的温
かさの良さを

が理解できるようになりました。特に、校友会の活動は会員の「皆で創る」よりよい校友会として、また追手門学院大学のコミュニティと絆を大切に、持続可能な社会貢献と自らの生涯研鑽を行おうとする会員皆様との連携・支援をも目的となつていきます。我等九州支部も20年前から毎年定例会を実施し、その都度校友会本部の皆様、大学の先生方にご参加を仰ぎ生涯学習の一環としてのお話や大学の現状と展望を窺うと共に、未加入の皆様への広報活動も行っています。

本年度新会員となられる九州の皆様、及び九州に勤務される皆様には、是非お近くで開催されます支部総会・懇親会にご参加いただきオール追手門・追手門コミュニティの一人として後輩諸氏に繋いで戴きたいと考えています。次年度からは学年別・学科別等の懇親会も企画しています。是非卒業後の連絡先を大学の校友会事務局へお知らせ下さい。

母校創立45周年
記念事業について

母校追手門学院大学は、2011年4月1日で大学創立45周年を迎えました。大学ではこれを記念し、2回の記念講演会を開催いたしました。ご講演をしていただいた講師の先生方は、教養教育について高い造詣をお持ちであり、それぞれの立場から教養教育について論じられました。以下は大学でまとめられた講演会の要旨の一部です。

第1回記念講演会
優勝ホール

校友会では、大学創立50周年に向けての独自のイベントの開催や、大学と協力し、これから行われます創立50周年の記念行事につきまして、最大限に協力していきたいと思っております。そのためには校友の皆さまのご協力やバックアップが不可欠です。母校発展のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

2011年7月7日(木)
に、大学創立45周年事業・

追手門の教育ルネサンス第1回講演会が開催されて、神戸女学院大学名誉教授・内田樹先生に「大学における教育」



教育とキャリアをテーマにご講演いただきました。

「ご講演は「教育の現状」「日本の横並び主義」「真の国際性とは」など多岐にわたりました。

**第2回記念講演会
フォーラム教室**

2012年1月26日(木)に、大学創立45周年事業・追手門の教育ルネサンス第2回講演会が開催され、国際日本文化研究センター所長・猪木武徳先生に「大学と教養教育」「大学の反省」その後、「をテーマにご講演いただきました。

人文教育、外国語教育がなぜ必要なのかについて、大学を取り巻く外的条件や



その歴史的背景などを交え、重層的にお話いただきました。

**大学創立45周年記念
宮本輝講演会**

「心と言葉」開催報告

追手門学院大学附属図書館

事務長 高畑悦子

2011年10月22日(土)、大学創立45周年記念事業として、第一期卒業生で作家の宮本輝氏を講師に迎えて、標記講演会を学生会館大ホールにて開催しました。今回は読売新聞社が進める「活字文化公開講座」も兼ねており、一般参加希望は900通を超え、全国から来られた聴衆で400席の会場は満席となりました。当日は同窓生も多く出席しており、宮本氏は懐かしそうに講演されました。

大幸治賞、芥川賞にはじまり、紫綬褒章など数々の受賞歴を持ち、複数の雑誌や新聞連載を抱えている宮本氏の活躍はみなさんよくご存知のことと



載を抱えている宮本氏の活躍はみなさんよくご存知のことと

思います。講演では作家になつてすぐにかかったパニック症候群を縁に、心とはなんだろうと真剣に考え、その答えを求めて古典文学を読んだ日々、そしてそこから良い作品にはむずかしい言葉や説明はいらない、いかに言葉を使わずに我慢するかが重要と気づいたと、作家の仕事からは一見逆説とも見える文学論を語られました。演題である「心と言葉」について、それらによつてしか文学作品は生まれないから、深く感じられる心を持ちつつ、いかに書かずには我慢するか、これからの作品を見てほしいとの言葉に次回作がより楽しみになりました。

講演会の模様は2011年11月13日刊「読売新聞」大阪本社版に採録されました。「宮本輝ミュージアム」ではビデオもご覧いただけます。

**上海師範大学
交換留学生歓迎会に参加して**

追手門学院大学学生部(兼)国際交流教育センター

次長 越智 英二

去る2011年11月4日に、大阪市内で開催された上海師範大学からの交換留学生の歓迎会に参加した。

本学と上海師範大学は、2010年10月21日に「学術・教育交流協定」を締結しており、今年、初めてとなる交換留学生2名を受け入れた。

当日は、あいにく1名が体調不良のため参加できなかったが、交換留学生および大学の双方にとつて、単なる歓迎会という意味合いを超えた貴重な情報交換の場となった。

本学は現在、国際交流推進年の最終年度を迎えており、この間、海外の多くの大学との提携や様々なイベントを実施してきた。

前線でこれら業務に携わってきた私が確信するのは、国際交流の成否は相互理解に尽きる、ということである。

提携やイベントの実務を遂行することは実はそれほど困難なことではなく、そこに互いの文化や価値観の違い、ニーズや期待値の違いに含ませることが出来るかが評価基準となる。これ

は人との対話なくしてありえない。

今回の歓迎会で語り合った交換留学生も、我々が理解しなければならぬ生きた現場の一つであり、同時に我々のことを理解してもらおう国際交流上の大切なパートナーである。

そのような意味からも、貴重な場を設けていただいた校友会の皆様には心から感謝を申し上げます。

上海師範大学との協定締結には、長年に渡り同大学の校友会と深い交流を持つ本学校友会の多大なご支援・ご協力をいただいております。今後とも、本学の国際交流推進に当たっては、校友会の皆様のご支援を賜りながら、着実に発展させていきたいと願っています。

**五期生が
還暦同窓会を開催**

蟻柴 潤一
(5期生 文学部)

昨年9月4日、梅田の新阪急ホテルで5期卒業生の同窓会が開催されました。5期生は昭和49年に卒業



し38年後の平成23年に60歳の還暦を迎えられました。そこで5期生の有志が集まり、還暦同窓会が計画され開催されました。

当時は経済学部と文学部しかなく、学科も経済、経営、心理、社会、東洋文化、英米語学の6学科約730名と少なく誰もが顔見知りでした。

還暦の年の9月には集まろうと思いつながら、開催までの準備に手間取り思うような同窓会が出来ませんでした。しかし80名近くの同窓生が全国から集まり、中には38年ぶりの友人もおりました。

会が始まる前から会場は38年前のキャンパスとなり懐かしい雰囲気包まれて

いました。そして短い時間を惜しみながら次回の再会を約束しました。

今回会場ではメールアドレスなどの登録をしてみたい今後の連絡手段の一つとしました。

また、記念写真をネット等での配布方法、懐かしさを誘う企画、名簿に記載の無い同窓への連絡などを今後の検討としました。

**2012年は六期生の
大(還暦)同窓会**

昨年、5期生で開催されました「還暦同窓会」を今年も6期生が開催したく企画しています。

校友会常任理事

費田 肇(経済学部)

吉田 浩幸(文学部)

京都支部支部長

岡 正樹(経済学部)

中国支部支部長

筒井 弘祐(経済学部)

九州支部支部長

岩崎 陽一(文学部)

右、5名の六期生面々が、実行委員会を設立し、開催の準備をすることに致しました。大阪府下、京阪神地

区はもちろんのこと、各地方支部の地域からも多数お誘いあわせの上、ご臨席ください。

会場は、ホテル等の宴会場を利用せず、大阪城のすぐそばにある追手門学院の施設「大手前ホール」を利用致します。

校友の芥川賞受賞作家の宮本輝先輩と植村直己冒険賞受賞の中西大輔氏の追手門学院主催第一回高島鞆之助賞授与式が開催されましたホールです。学院の各種行事や記念パーティー等でもよく利用され、大阪城天守閣を一望に眺められる素晴らしい環境です。

後日、6期生の皆様をはじめ恩師やご来賓の方々に詳しいご案内させていただきます。

また、多数のご参加をお待ち致しますと、ともに、お手伝いをお願いできます方々を募っております。

ぜひ、校友会事務局
072・643・6135
または、東京支部 春名弥生支部長や、四国支部 中川純支部長にもご協力をお

願ひ致しておりますので、各地方支部支部長まで、お申し出くださいますようお願い致します。

この様な催しが7期生8期生いや、10年、20年と校友会で引き継ぎ行われま

す事を願っています。企画等のご相談は校友会事務局又は各支部長にご連絡ください。

記

期日 11月3日(土曜日)

時間 午後1時受付
午後1時30分開宴

場所 追手門学院
大阪城スクエア

大手前ホール

住所 大阪市中央区大手前

1 3 20

最寄駅 京阪電車または、

地下鉄谷町線「天満橋」

会費 五千元



**2011年度
春学期末学位授与式が
挙行されました**

9月28日(水)午前10時30分より、2011年度春学期末学位授与式が、1号館3階会議室5にて挙行されました。

追手門学院歌斉唱、学位記授与の後、竜田学院長並びに落合学長より式辞が述べられました。校友会からは、卒業記念品として学部卒業生54名に、平野会長から『卒業アルバム』を贈呈しました。

引き続き、食堂棟3階に場所を移し、午前11時30分より教育後援会主催の卒業謝恩パーティーが開催され、盛況の内に卒業生たちは巣立っていきました。



卒業アルバム
あれこれ

元アルバム作成委員長

鶴 毅

(1期生 経済学部)

大学校友会(將軍山会)は、卒業記念品(校友会入会記念品)として旧1号館をデザインした記念メダルを贈呈してきましたが、1号館の建て替えを機会に卒業アルバムの製作費を全額予算化し、校友会から卒業アルバムを卒業記念として贈呈するようになりました。卒業アルバムについてその歴史を振り返ってみたいと思います。

1970年3月第1期生



創刊号

の卒業に際し、卒業アルバムは創刊されました。当時は校友会も本格活動を開始したところで、外部組織もPTA(現在は教育後援会)があるだけでした。卒業が近づいても卒業アルバムは

誰の頭の中にも存在しないものでした。1969年秋、將軍山祭の少し前に何とかアルバム製作委員会が発足しました。なぜ將軍山祭の前だったのかを思い出すと、それまで学生生活の写真という記録が無かったのです。アルバムの顔写真や授業風景・クラブ活動の様子はまだ撮影が可能でしたが、大祭は間に合わないため学生課の協力を得て、有志により製作委員会は26名で活動を開始したのです。

当時の浮田助教のご指導のもと、関係者特にPTAと山桜会のご支援の下に制作資金の目途も立ち準備にかかりました。表紙等の装丁は美術部員が担当、写真撮影は写真部員が担当といった100パーセント学生が自前で編集作業をいたしました。まずは、楽しかった大学祭の撮影から始まり、授業中に各教室を回り先生方のご協力のもと教室で個々の顔写真を撮影してゆきました。クラブ活動の撮影にも走り回りましたが、個人の撮影した写真も多数提供していただき何とか必



1期~10期

要想定枚数を確保することが出来ました。

編集作業はそれこそ大変な作業となりました。印刷業者との打ち合わせや版下のチエック等最終校了まで大変な毎日が続きましたが、無事完成し卒業生の皆様のお手元に発送することが出来ました。

現在の編集作業はパソコンの発達により入稿や訂正が瞬時に行えますが、当時は限りなく手作業でした。40年前の懐かしい思い出です。何年かはこのような自前の製作が続きましたが、業者任せに次第が変わっていったと思います。

現在は逆に100パーセ



11期~20期

ント業者任せと聞き、時代の変化に驚くばかりです。創刊から42期生までの卒業アルバムの背表紙のみですがご覧ください。

大学の庶務課にて保管していますが、残念なことに1978年卒の9期生・1979年卒の10期生そして1994年卒の25期生の卒業アルバムが欠号しています。2016年の開学50周年に向けて大学の歴史に関する資料を集めています。皆様にとって大事な思い出の記録かとは存じますが、大学にて保管しても良いと思われる方のご連絡をお待ちいたします。



21期~30期

追手門学院大学の
『思い出』が
眠っていませんか？

追手門学院大学は、2016年4月1日で創立50周

年を迎えます。

大学では、これを機に、大学創設から50年の軌跡をたどり、もう一度大学創設の原点を見直し、更なる50年に向けての出発点とすべく、「大学創立50年史並びに記念DVD」を作成することになりました。

皆さまのご家庭で眠っている大学に関する貴重な映像や写真(当時の記念映像8ミリ、16ミリフィルム、ゼミナールやクラブ活動の写真・資料等)がございましたら、ご寄贈、ご貸与いただけますようお願いいたします。

問い合わせ

追手門学院大学

大学事務部(庶務課)

担当 森・山本

〒567 8502

大阪府茨木市西安威2-1-5
072-641-9668



31期~42期

追手門学院大学校友会 プロフィールシート

会員番号					平成	年	月	日現在
ふりがな								
氏名					電話番号			
旧姓					携帯電話			
ふりがな								
住所	〒							
E-mail (PC)	@				E-mail (携帯)	@		
期生		学部		学科・専攻				
クラブ名					ゼミ名			
勤務先名					業種			
勤務先所在地					勤務先電話番号			
勤務先URL					部署			

住所等に変更が	① あり	② なし
---------	------	------

次に列挙する校友会主宰（在校生・卒業生向け）のイベント等についてご協力を頂けますか？		
社会人としてのキャリアアップセミナー講師	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
キャリアアップに関する個別のアドバイザー	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
会社訪問・会社見学のご協力	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
プレインターンシップへのご協力	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
インターンシップへのご協力	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
学生アルバイトの受け入れ・ご採用	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
新規学卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
大学既卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
留学生の観光などのご協力	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否
留学生の受け入れ（ホームステイ等）のご検討	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否

■ご職歴・得意分野・その他（ご協力内容）
■保有資格・趣味・社会活動など

当該プロフィールシートにて得た情報は大学校友会の活動においてのみ使用致します。

郵送の場合の「のりしろ」

郵送の場合の「のりしろ」

郵送の場合の「のりしろ」

郵送の場合の「のりしろ」

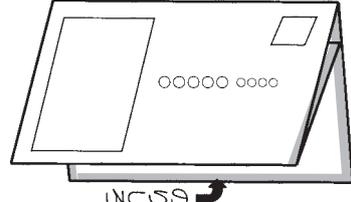
郵送の場合の「のりしろ」

郵送の場合の「のりしろ」

のり

【郵送の場合】

一カ所の点線で「山折り」し、同番号どつしの「のりしろ」で糊付けしていただき、封筒状にしてポストに投函して下さい。
差出有効期限内は、切手不要です。



料
金
受
取
人
私
郵
便

茨木支店承認

4088

差出有効期限
平成24年 8月
31日まで

567 8790

(受取人)

大阪府茨木市西安威

一丁目一番十五号

追手門学院大学校友会

事務局(庶務課) 行

山折り



のり

のり

山折り

FAX. 072-643-6099

※ 封筒の押し間違いに注意下さい。

567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学校友会

電話 072-643-6335
FAX 072-643-6099

のり

恩師を訪ねて

追手門学院大学は45周年を経て、この4月よりいよいよ50周年に向けて動き出します。

校友会も、この記念すべき事業に向かい長い歴史を振り返りつつも大学の新しい進路へ貢献して行きたいと考えています。

この長きにわたる年月の流れの間に、たくさんのお恩師たちの退官がありました。今年も、5名の先生方が惜しまれつつも追手門学院大学を退官されます。

特に、大学創設当時より教学のみならず熱き情熱のもと大学の改革にご尽力を頂きました山中先生、福井先生の退官に接し、心より厚く御礼申し上げます。

退官される先生方を代表してお言葉を賜りました。

先生方の追手門学院大学への深き情熱と想いを、懐かしき思い出とともにふりかえってください。

思い出

経済学部教授

福井 南海男



田んぼの中にぼつんと建っている、白亜の瀟洒ではあるが何か安普請の感じがする追手門学院大学に赴任してから、42年の歳月が過ぎていきました。それまで勤めていた大学からみれば、何か大学と言うには心細い所ではありましたが、教員も職員も学生もこの大学を社会に誇れる大学にするのだという、熱い情熱に立ち満ちていたのが昨日のこと

のように思い出されます。

こうした熱い思い出に押され、卒業生の母校をなくしてはならないという教員としての責任感から大学の改革に取りかかったのですが、

最初の20年間は、すべてのことが思い通りには進まなくて、絶望に近い思いに駆られていました。

大学の改革が劇的に進み始めたのは、後藤先生を学長に迎えた頃からでした。当時の執行部の方々と、深夜まで会議を重ね、また、他の諸部門の方々と交渉を重ねて、後藤学長のもと、ようやく、この大学は新しい進路に向けて歩み始めたのです。それから20年、後藤、戸塚、鈴木と各学長のご尽力もあって、追手門学院大学は、外見的には、大学としての体裁をようやく整えることができました。しかし、まだ問題は山積していて、大学は改革の途上であり、大学消滅の危機がなくなつたというわけではありません。

校友会の皆様には、私が大学の改革に携わることになつた頃から、歴代の会長を通じてご支援をいただきました。今後とも、温かくかつ厳しい目で大学を見続けていただけるようお願いいたします。

退官に際して

経営学部教授

山中 雅夫



時は容赦なく流れる、というのが今の実感です。大学が創設された翌年の1967年に経済学部助手として採用されたのが26歳の時であり、それからなんと45年近くが経過したことになります。追手門での生活がここまで続くとは思ってもやらぬことでした。大学の教職員の方々は言うに及ばず、理事会を始めオール追手門の方々の支えなしには、ここまで来れなかつたと思っております。そのご恩に、ただけ報いることができたのかと振り返れば、忸怩たるものがあります。関係の方々に改めて心よりお礼申し上げます。

大学においては経営学総論・企業論を担当しました。それらは経営学部の必修科

目・基幹科目でありましたから実に多くの学生諸君に接する機会を得ました。その諸君の数が果たしてどれだけになるか調べていませぬが、卒業生がそれぞれの分野で活躍していることを知る機会が多いのは幸いなことです。昔はゼミ生10名足らずの時もあり、研究室のみならず大学近くの借家住まいの家に集まつたり、時には引越しの手伝いまでやつてもらつたこともあります。ゼミではいつの頃からか琵琶湖近くとか、ゼミ卒業生経営のペンションを借り切つての研究合宿が恒例となり、山中杯争奪テニス大会で遊んだり、時にはゼミ学生の研究論文集を出版し卒業記念に贈つたこともありました。懐かしい思い出です。

近年の大学校友会の活発な活動に接すると、大学の発展・後輩の成長を願つてやまない熱い思いがひしひしと伝わってきます。会長を始め関係諸氏のためまぬ尽力には頭が下がります。学院120周年記念事業では、校友会挙げての物

心両面にわたる温かい支援を頂いたことは記憶に新しく、同事業の推進役の一端を担っていた者として、今もって感謝の思いが薄らぐことはありません。卒業生の皆さんが諸先輩のこの熱い思いに励み、「独立自強・社会有為」という追手門の志を、世に広められることを念じて止みません。

おわりに校友会のますますのご発展を祈念し、退職に際してのご挨拶とさせていただきます。

山中先生「ご退官 おめでと〜いございます

西本 和生

(7期生 経済学部)

退官おめでと〜いございます。45年の長きにわたりお疲れ様でございました。

追手門学院で始めから最後まで完徹されましたこと、素晴らしき限りでございます。教授は70歳を迎えられ、小生は還暦を迎えました。

ある日のゼミでは、安威神社の社務所に住まいされていた先生宅で、また小豆島で、伊勢でと、同期13名

と共に時を過ごしたことが先日の様に思い出されます。講義内容は思い出せないのですが、若く未熟なこともあればワクからはみ出しそうな我々ゼミ生と、場違いなくらい生真面目な先生。その関係はとも温かく心地よかったです。卒業後も石部のお宅、大阪のお宅へと、先生の温かい人間性に甘えて、学生気分抜けやらず、皆で押しかけたものです。幾組かの仲間もして頂いておりました。私たち夫婦もその一組です。

若き日に大病をされ40歳位までしか生きられないだろうと言われながらも今日70歳を迎えられた事、一重に奥様の献身的な努力に支えられての事と、ご賢察いたします。

私も、卒業後25歳で独立し、事業を起こして早35年が過ぎました。繊維の世界では移り変わりが激しく、大変な時を過ごして居ります。現在は、大阪中央区と中国上海にて、会社を営んで居ります。経営学と言う学問に付いては、不出来な

学生だったのであまり難しくは考えておりません。唯日本人も中国人も、共に人間であり、経営者としてのリーダーシップの中に人間の温かさが必要です。カリスマ的な力があれば良いのですが、私にはありません。特別なテーマは何も無いのですが、卒業テーマであった、「リーダーシップ」を実践している様な昨今です。リーダーシップすなわち先生から感じとらせていただいた温かさではないでしょうか。本棚の色褪せたドラッカーを見て学生時代を思い巡らせております。

先輩諸兄、あまた後輩諸氏共々、山中先生の第二の人生、これからもお付き合いさせて頂いていただきたく思います。そしてこの節目に際して、

皆でエールを送りたいと思っております。おめでと〜いございます。



活躍する校友

ミノル化学工業(株)

代表取締役 押川 新一

(第14期生・文学部)



卒業後は4年ほど化粧品関係の会社にて営業を経験した後、家業である今の会社(プラスチック製品の製造販売業)に入社しました。当時は100%受注生産で得意先から言われるものを他社よりも安く、早く、きれいにを重点にもつくり専念していましたが、空洞化の勢いは増すばかりで弊社も生き残りをかけて自社製品の企画、製造、販売に着手しました。商品開発テーマは「ニッチのオンリーワン!」で他社とは比較できない付加価値のあるモノづくりを目指しました。まずは温度によって色の変

わるコップに始まり、ペトボトルを再利用してできる「フレックスジョウロ、水差し、スプレー」はリサイクル商品としてそのユニークさから新聞、TVでも取り上げられ、下請け時では考えられなかったメーカーとしてのものづくりの楽しさ、自社商品の売れる喜びを経験いたしました。その後たまたま目にした新聞記事がきっかけで食玩ブームを知り、現在でも弊社の看板商品であるフィギュアケースとしての「ミノルキューブ」の誕生がありました。詳しく弊社HP「ミノル化学」or「ミノルキューブ」で検索していただければ幸いです。最後になりましたが私がいつも心掛けているのが「3つのC」です。目標に向かってChallenge(挑戦)すればChange(自分や環境に変化が起きる)そうするうちにChance(チャンスをつかむ)というサイクルで今後も価値ある商品を創造し続けたいと思っております。

感謝!

**現役学生会との
交流会と表彰式**

現役学生との交流会及び優秀学生の表彰式を平成23年12月10日に開催しました。現役学生との交流が出来るイベントの一つです。現役学生側は校友会本部等の役員が参加され今後の校友会活動の即戦力にふさわしい凛々しい学生ばかりでした。

**頼もしい!
追大現役学生たち**



学生部長 高森哉子

今年度も昨年度に引き続き、校

友会の皆様と現役学生との懇談会を開催して下さい、また、今年度各方面で活躍した学生を表彰して下さいまして、ありがとうございます。彼らにとって、諸先輩方の激励は、大きな励みと自信になると思います。さて、私は、学生部長になりまもなく3年になりますが、授業やゼミ活動だけ

ではなく、学生生活のさまざまな場における学生たちに接することができるのは、教師として大きな喜びを感じる場所です。そのなかで、懇談会の席上でもお話しした現役学生たちの頼もしさについて、その一例を改めて紹介いたします。

本学では、数年前より、校友会の諸君と職員有志が協力して、金曜日の昼休み、清掃用具などを携え、学内「マナーアップ活動」を継続してきました。その過程で、校友会から学内禁煙に踏み切るのかどうか、大学としての方針をはつきりと打ち出して欲しいと要望されてきましたが、なかなかそれに応えることができ



ずにいたところ、校友会第43期の諸君から、大学問題連絡協議会などの場で、他大学の調査も踏まえた上で、「追手門学院大学は3年から5年先に、学内全面禁煙に踏み切るべし」との提案が出されました。校友会諸君の積極的な提案に対して、学生部長として、傍観することはできません。そこで、働きかけた結果、教職員と校友会の代表から構成された「禁煙プロジェクトチーム」が実質的に動き始めることになりました。この4月には、ひよつとしたら「追手門学院大学は、2015年に学内全面禁煙します!」とのポスターが、校友会の皆様目の触れることになるかもしれません。それをもちたしたのは、まさに、現役学生諸君の頼もしさです。

私の母校も、校友会活動の盛んな大学です。今、教員としての目で校友会を見ると、校友会がしっかりと大学をサポートし、大学がきつちりと校友会の期待に応える、この校友会と大学との信頼関係の構築が、校

友会を発展させ、ひいては大学を発展させることになりま。校友会が発展するには、その基礎として、若い校友が、どんな校友会活動に参加することが重要であり、それが大学発展の礎ともなります。その意味で、校友会の皆様と現役学生との懇談会が開催されることは、大学の一員としても、とてもありがたいことだと思えます。この懇談会が、これからも継続されますことを、心から祈念いたしております。

校友会表彰式に参加して

Dutcher's616 代表

若狭 達也

(2回生 国際教養学部)

私たちは追手門学院大学に所属しているダブルダッチサークルDUTCHERSです。現役生として活動している学生は2回生10名、1回生12名、合計22名で、今年から入ってきた1回生が第7期となります。DUTCHERSとしての主な活動は、チーム毎に関西または東京で開催される各大会に出場するこ

とです。一番大きな大会が昨年の9月に開催されたのですが、各チームとも満足のいくパフォーマンスがとれず悔しい結果に終わってしまいました。この大会で3回生が引退し、世代交代でサークルを引っ張っていく立場になった2回生、初めての大会が終わり来年こそは!と気合が入る1回生、その時の後悔、悔しさを忘れず、今もとても楽しく練習に励んでいます。

その他にも、私たちは地域の児童に対してのダブルダッチ体験、交流、またイベントでのパフォーマンスなどダブルダッチ普及にも力をいれています。今回、この普及活動に対して校友会の皆様から表彰をしていただきました。その際、ダブルダッチで使用する縄をたくさんいただき、



自分たちのダブルダッチを
どんどん広めていきたい！
という思いに、このような
形で支えてくださる校友会
関係者の皆様には現役生は
もちろん、OB、OGを含
め本当にありがたく思っ
ています。

表彰式には現幹部、旧幹
部の4人で出席させていた
だきました。豪華な食事に
加え、追手門学院大学OB、
OGの大先輩の方々とも
ても貴重なお話ができて光
栄でした。

最後に改めて、校友会関
係者の皆様にお礼申し上げ
ます。まだまだこれからも
DUTCHERSの活動は
続いていくので、ご声援の
程、よろしくお願いいたし
ます。

女子ラクロス部の仲間と 2部昇格を目指して

女子ラクロス部主将

島田 明子

(3回生 国際教養学部)

現在、私たち女子ラクロ
ス部はプレーヤーが17人、
マネージャーが3人で活動
をしています。

毎年8月に開幕するリ

グ戦が昇格するための唯一
の公式戦になります。そし
て私たちの大学は「2部昇
格」という目標を掲げて
日々練習に取り組んでいま
す。今年で3部に所属して
12年目になる私たちですが、
個人的には四回生の今年が
ラストイヤーとなるので、
去年とは何か変えて来年は
後輩たちには是非2部で戦っ
て欲しいという気持ちでい
っぱいです。

昨年度私は副主将として
チームを引っ張りつつ、主
将を支えていく立場でもあ
り、ゴールキーパーのスタ
ーティングメンバーとして
公式戦にも出場させてもら
いました。副主将としてチ
ームをまとめていかないと
いけない」とか「主将の支
えになれていない」とかゴ
ールキーパーとして私がシ
ュートを止めなければ「な
どという悩みを抱えてその
重圧に押しつぶされそうに
なった事もありました。一
人で抱え込む事もよくあり
ました。そんな時に私の支
えになってくれたのが仲間
でした。仲間に相談したら
一人で考えていた悩みがも

の凄くちっぽけに感じまし
たし、気持ちが凄く軽くな
りました。やはりこの仲間
たちがいてくれるからこそ
現在もこうしてラクロスを
続ける事が出来ているのだ
と思います。本当に感謝の
気持ちでいっぱいです。

この3年間笑ったり泣
たり泣いたり苦しんだり悩
んだりしましたが、このク
ラブに入った事は後悔して
いません。そして今年の主
将としてチームの事を一番
に考えて全員で来年のリ
グ戦は必ず「2部昇格」を
果たして、応援して下さい
ている歴代の先輩方や、校
友会の皆様にも笑って報告
出来るように日々精進しよ
うと思います。引き続きご
声援の程宜しくお願い申
上げます。



追手門学院 大阪城スクエア 催し物案内

1. 大阪城スクエアファミリークラシックコンサートVol.5
5月27日(日) マグダレーナ・ズックピアノリサイタル
時間 14:00~15:30 / 入場料 500円(高校生以上)
小学生、中学生無料

2. 追手門学院 大阪城スクエア「アドバンスト・リサイタルシリーズ」
4月14日(土) 雨田一孝・万由美デュオ・リサイタル
5月12日(土) 清水由希子ソプラノ・リサイタル
6月9日(土) 山本純子フルート・リサイタル
時間 全日程 11:00~12:00 / 入場無料
以上、未就学児の入場はご遠慮ください

3. 大阪文化の深読み講座
4月13日(金) 大阪弁のコミュニケーション
講演:金水 敏(大阪大学大学院文学研究科教授)
聞き手:高島幸次(追手門学院大阪城スクエア企画アドバイザー)
5月11日(金) 大阪の宗教空間
講演:北川 央(大阪城天守閣研究副主幹)
聞き手:高島幸次(追手門学院大阪城スクエア企画アドバイザー)
6月22日(金)
講演:恩田雅和(天満天神繁盛亭支配人)
聞き手:高島幸次(追手門学院大阪城スクエア企画アドバイザー)
時間 全日程 19:00~20:30 / 受講料 各1,000円

4. 第3回追手門寄席「医師と看護師の落語」
4月28日(土)
時間 14:00~16:30 / 入場料 1,500円
第一部 落語
笑福亭たま 「短命」
桂 文喬 「研修医山田一郎」
笑福亭福笑 「愛しのクレゾール」
第二部 鼎談
ゲスト:久坂部 羊(作家兼医師)
×笑福亭福笑(落語家)
×高島幸次(追手門学院大阪城スクエア企画アドバイザー)

5. 第43回学校経営管理セミナー
4月21日(土)
「私立大学における法人機能と教学活動~その役割分担と統合~」
時間 14:30~16:30 / 入場料 1,000円
講師:井原 徹氏(学校法人 実践女子学園理事長)

その他、卒業生による連続講演会、大学客員教授による連続講演会など、
4月以降に様々な講演会を開催いたします。
詳しくは、大阪城スクエアホームページをご覧ください。

申し込み・資料請求・お問い合わせ

追手門学院 大手前センター 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20(追手門学院大手前中・高等学校本館6階)

TEL 06-6942-2788 / FAX 06-6942-2744 <http://www.otemon-osakajo.jp/> info@otemon-osakajo.jp

追手門学院大学アワー
in 東京

島田 朗仁

(17期生 経済学部)

「夢の実現」ツキの10力条」というテーマで講演会が開催されました

講師はTV『なんでも鑑定団』で著名な北原照久さん。とても明るく開口一番

「今日の話は、いい話ですよ」と会場を盛り上げ、時折ジョークで参加者を和ませるサービスピ精神旺盛な方でした。



講演では、北原さんが小学生の時オール1であったこと、中学時代に中退したこと、高校時代に恩師に巡り合い人生の転機を迎えたこと等、エピソードを交えこれまでの人生を面白く語

って頂
き、30
歳まで
に夢見
たこと
全てを
実現し
たこと

を映像で見させて頂きましたので、とても分かり易か

つたです。

北原さん曰く、夢の実現

にはツキを呼び込むことが不可欠で、プラス発想をすること 勉強好き 素直である 感謝する ツイている

人と付き合う 親孝行する 人は褒める ツイている

と思ひ込む、の10力条を実践することで夢を実現して

きたそうです。更に夢を叶えるには、将来夢を実現した自分の姿を明確にイメージし、常に夢を誰かに語る

ことが大切だということも熱く語っていました。

また、講演終盤の知覧特攻隊のお話は非常に感動しました。特攻隊員だった当時の若者達が家族へ送った遺書の言葉は心に沁みます。日本人として幸せであること

追手門学院大学アワー
in 岡山

原田宗典講演会

「あらためて言葉について」

田中 克茂

(30期生 経営学部)

初めての岡山で少し緊張

しながらの講演会です。講演会がはじまると原田氏はいきなり作務衣と鉢巻姿で登場。作家なのにまるで陶芸家のようにまるで陶芸家のようないでたちです。注目の第一声は、ボソボソとつぶやく様な話し方です。自動的に睡眠に入ってしまった、ありがちな講演会なのか？しかし、私の不安は杞憂でした。



ピートルズの曲にあわせながら、独特のテンポと話術

に、みるみる原田氏の世界に引き込まれていきました。東日本大震災以後にマスコミ等で発信された言葉の数々について、原田氏の思いや考え、そして言葉。高齢化社会をパロディにしたラジオCM。さまざま話題に対し時に真剣に、時にユーモア満載で緩急の付いたお話でした。文章ではとても表現のしようがないですし、又、伝え切れないのが残念でなりません。

私は長女に「言葉を大事にして欲しい。言葉の重要性をわかる人になって欲しい。」との思いから、「ことは」と名付けました。まさに講演会テーマの通り「あらためて言葉について」の重要性を再認識した追手門学院大学アワー in 岡山でした。

支部長会を開催

10月30日(日)のホームカミングデー終了後、13時30分から、將軍山会館地階会議室において、定例の支部長会を開催した。校友会各支部からは、東京支部：春名、京都支部：岡、中国支部：筒井、九州支部：岩崎の各支部長が、本部からは、平野会長はじめ11名の役員が出席して行われた。会議の中では、各支部長から、支部の現況・活動内容が報告され、支部運営の問題点や本部からのサポート体制等に関する意見交換を行った。なお、意見交換の中で、九州支部が実施の検討を行っている「若手の会」に出席者の注目が集まり、若い世代の会員の活動の活性化を視野に入れて



東京支部総会

井上 淳

(32期生 経済学部)

日時：2011年11月12日(土) 場所：東天紅

大学卒業後10年経ち、偶然にも先輩からの一言で、東京支部の懇親会に参加しました。当初は堅いイメージがありましたが、参加すると、先輩方はフランクに話して下さり、とても和や

かな雰囲気だと感じました。異業種交流会と同窓会が合わさったような感じであり、大学の話はもちろん、仕事の話など多岐に渡り、時にはアドバイスを頂戴したりもしました。東京での参加人数は少ないのですが、増えていけばもっと良い会になる事は間違いないと思います。大学を卒業して東京に就職する後輩にも支部を通してサポートなども出るとも思い



ました。私も微力ながら何かご協力が出来ればと思います。

中国支部総会

中国支部長 筒井 弘祐
(6期生 経済学部)

中国支部発足と同時に支部長になりました六期生の筒井と申します。10月1日岡山で、追手門学院大学アワーが開催され、終了後に



総会を行うことになりました。学校関係者の方、校友会役員の方、校友会の方々多数に御

出席頂き、無事総会が終了致しました。その後の懇親会で色々盛りあがって楽しく終了致しました。皆様本当にありがとうございました。

四国支部を立ち上げて

四国支部長 中川 純
(21期生 社会学部)

初めての四国支部総会が、旧善通寺偕行社会議室にて11月27日(日) 学校関係者・校友会関係者が多数参加し開催されました。今回の総会では、今後の活性化について活発な意見交換がなされた。また、キャンパスの様子や、新たな取り組みについての現状報告がなされました。新支部長として、四国内の卒業生の交流



を活性化させ、風通しの良い、会員が集いやすい支部にしたいと挨拶し、

閉会後には高松の偕行社前で、記念撮影を行い、その後の、懇親会では、初めて出会う方々と追大での思い出話、今後の支部活動への期待等で大いに盛り上がりあつという間に閉会となりました。

校友会四国支部総会に参加して

塩崎 明希子(旧姓 松下)
(28期生 文学部)

この11月、初めて校友会に参加しました。大学卒業以来14年ぶりの追大イベントです。

時折くる会報での追大の変貌ぶりに興味があつたし、楽しかった20代の頃を懐かしむ気持ちもあり、同窓会に出席する気分ででかけました。

宮本輝氏の同期の方、今もなおアメ民の片鱗が垣間見える方との期待通りの出会いがありました。なかでも驚いたのは、私が働いている会社の社長に少林寺拳法を教えている方がいたことです。



大学時代の思い出は大切にしていきますが、関わることはありませんでした。今回の校友会の参加で、改めて在籍時の学科名がなくなつてしまったことを寂しく思い、母校には発展し続け

ていて欲しいという思いを持ちました。仕事に忙しかもいれませんが、少しも興味があれば、校友会に参加してみるといいと思います。同窓会気分を味わえるかもしれないし、ふとした縁から人脈が広がるか

もしれないし、視野が広がるかもしれない。久々に追大キャンパスを訪れたくなりました。

2011年度校友会総会を開催しました

10月30日(日) 午前11時より、大学食堂棟3階において、2011年度校友会総会を開催いたしました。

平野会長の挨拶の後、議案審議に移り、2010年度事業報告・決算報告、次に2011年度事業計画並びに予算の説明報告が行われ、各委員会活動報告について、また、キャリア開発支援について質疑応答が行われました。



ホームカミング・デーの
楽しみ

山口 陽子(旧姓 北田)
(12期生 経済学部)
「將軍山祭」通称「山祭」
の中日にあるホームカミング
グ・デー。当日はあいにく
の小雨模様でしたが、お昼
近くになると、当時の面影
を残す食堂前の坂を、お腹
が出ていても、シワが増え
ていても、息をきらさせてい
ても、関係なくすっかり追
大生に戻った「昔の学生」
が集まってきました。きつ
と午前中に、それぞれの想
い出の場所を懐かしんだり、
クラブの後輩のお店をのぞ
いてこられたのでしよう。
学校は新しくきれいな
りましたが、それでも、学
生会館、2号館、居眠りば
かりしていた3号館の教室
鳩のとんでいるスクールバ
ス、当時のままの所もあり
ます。その中にいると、若
くて、気のむくまま走り回
っていた青春時代の自分を
みつけたのではないでしょ
うか。それぞれのお顔が若
がえった様に思われます。
今日だけは、色々な肩書を



はずして、きれいになった
食堂で、久しぶりのお顔を
見つけ合い、名字を忘れて
もニックネームはすらすら
出てきたり、クラブの先輩
に出会うと最敬礼になった
り、私はというと、なかな
か単位をくれず、泣いても
合格点をくれなかった先生
をみつめて30年前のうらみ
をお話して大満足でした。
アメリカ民謡研究部OBの
演奏は、60、70、80年代の
卒業生には懐かしいもので
した。短い時間ではありま
したが、お白湯を飲んだ時
のような暖かい気分になれ
ました。
このような機会を作って
いただいた事に心より感謝
いたします。ありがとうございます。
また一年間がんばって行こうと思えます。

18期生 金田ゼミ同窓会

山内 聖子(旧姓 新井)
(18期生 文学部)
平成23年10月16日、大阪
駅前第3ビル河久にて、文
学部東洋文化学科金田ゼミ
18期生(昭62年卒業)の同
窓会を開催しました。
初めての同窓会なので、

殆どの同窓の連絡先が不明
で、開催は困難かと思っ
ていましたが、幸い、皆さ
んと連絡を取ることがで
き、開催の運びとなりまし
た。金田先生とゼミ生17名
中10名の参加者は、24年振
りに再会し、金田先生はお
変わりなく、現在は、大学
共同利用機関法人の人間文
化研究機構の機構長をされ
ているそうです。和やかな
雰囲気でも弾み、楽し
い時間
を過ご
しまし
ました。
眠
れない
程、楽
しみに
して下
さった
先生が、



「今日は思った以上に楽し
かった。」とおっしゃった
ので、私たちも大変うれし
く、金田先生と今後も数年
毎に同窓会をすることをお
約束しました。
ソキウス・第6回総会開催
社会学部支援同窓会ソキ
ウスの第6回総会・懇親会
が、22名参加にて、10月30
日、母校食堂棟3階で開催
されました。今年は吉田先
生・矢谷先生、そして経済
学部名誉教授の藤原一郎先
生にご出席いただき、近況
をお話いただきと共に、ミ
ニ講和として矢谷先生から
「ここらところ」という
お話を、今回特別参加いた
だいた藤原先生からは、3
11大震災で問題となってい
るご専門の放射能について
「福島原子炉事故に関して」
と題して講演いただきました。

2011年度心理学科
同窓会の報告

本年度も心理学科の同窓
生の集いを、10月30日ホー
ムカミングデーに合わせて
開きました。お子様づれを

含め、卒業生19名
にご参加
いただき
ました。
学部長
からのご
挨拶、井
上先生か
らの大学
や学科の
変化を中心とした報告が行
われ、藤本先生のお元気な
ご様子と、近況報告をいた
だきました。集合写真撮影
の後、学科長の挨拶でお開
きと致しました。



セーリングサイクルの
冒険をサポート

中西大輔氏(23期生)は、
自転車に帆をはり走行する
セーリングサイクルでオー
ストラリア横断に挑戦する
冒険家池本元光氏をサポート
するために、1月12日に
日本を出発しアレドンドか
らパース迄二人だけで、
907キロの大冒険に旅立
ち、39日間かけて完走し2
月26日無事帰国しました。
詳細はホームページにて報
告します。

東日本大震災
義援金のお願い

啓蟄の頃、草木が芽吹き虫たちも姿を見せてくれるでしょうが、東北地方の被災地では、「うれしい」には程遠い春の訪れではないでしょうか。

広報委員会では、被災地の方々に会報を全て送付すべく努め、ほぼ、届けてある事がわかっています。ただ、お一人だけ、いまだに連絡をとる事が出来ません。校友会としても引き続き、お尋ね、お探し続けます。校友のご無事と一日も早く被災地の多くの方々に、本当に「うれしい春」の訪れがきますようお祈り申し上げます。

会報につきましては過去の号も含め、

校友会ホームページ
URL: <http://www.ogu-koyukai.com/kaihout.html>
よりダウンロードもできます。

校友会では、引き続き、皆様から義援金を募っています。どうぞご理解いただき、よろしくご協力をお願い申し上げます。

郵便局振込取扱票「青色」口座番号
009506226741
加入者名
追手門学院大学校友会

プロフィールシート
ご協力をお願い

母校キャリア開発部、また、校友会キャリア開発支援委員会の努力により、後輩卒業予定者の就職内定率は一定の成果を上げてはおりますが、未だ、思わしくは御座いません。

既卒者の就職未決定者も大量に発生しているのが現状で御座います。このような状況下、校友会では在校生の就職支援は、もちろんの事、既卒就職未決定者の為にもセミナー等の母校支援活動を実施してまいりました。また、国際交流や留学生の活動にも支援ご協力を行っております。キャリア開発支援並びに国際交流支援をはじめとした母校支援の一助に校友の皆様方の温かいご理解ご協力をお願いいたしたく、同封のプロフィールシートに、お力添え戴ける内容をアンケート式にお尋ねいたしますので、

お一人でも多くの方がアンケートにお答え戴き、ご登録お力添えいただければと願っております。当該プロフィールシートにて、ご登録戴きます個人情報は大卒校友会の活動にのみ使用いたします。多忙の折とは存じますが、同封のプロフィールシートにご記入のうえ、ご返送頂きたいお願い申し上げます。

追手門学院
大阪梅田サテライト
4月1日オープン

4月1日から梅田阪急ターミナルビル16階に母校学院の大阪梅田サテライトが開設されます。母校では学生の就職活動、入試広報活動の拠点として、阪急茨木市駅前と大阪城スクエアにサテライトオフィスを設け学生支援に努められてきました。4月からは、これらのサービスをより充実させることを目的に大阪梅田に拠点を開設されます。大阪梅田サテライトでは、学院・大学のブランドイメージの向上、募集戦略の拠点、キャリア・就職支援とあわせて生涯学習支援、社

会連携活動等、さまざまな事業を展開される予定です。また、卒業生・校友会の方々など、学院関係者の情報交換や交流の場としても利用できるようです。



校友会と母校の最新情報
「校友会メルマガジン」への登録をお願いします。

携帯電話とパソコンに配信しています。また、携帯用のホームページもメルマガでは伝えきれない情報をリアルタイムにお伝えできるようにになりました。メルマガ登録と携帯へのブックマーク登録をお願いいたします。

メルマガの受信は、パソコンと携帯、両方に登録できます。ご不明な際は校友会事務局までメールにてお問い合わせください。

編集後記

評議員に就任して初めて編集作業の手伝いをしました。会報を生み出すのは苦労と楽しみの双方が内在する作業です。段取り不足もあり関係者にご迷惑をおかけしましたが完成と相成りました。感謝(ス)



メルマガ登録用 QR コード
http://ogu-koyukai.com/script/member_regist.php
携帯電話用ホームページ QR コード
<http://www.ogu-koyukai.com/keitai/koyukaitop.html>

携帯での受信には @ogu-koyukai.com の指定受信を設定してください。

